

「山崎だより」は回覧板と一緒に回ります。各戸毎に一枚お取り下さい。

節分祭寄進のお願い
↓
裏面参照

■新年を迎えるにあたって

山崎年長者クラブ会長／岩崎泰典

■皆さん新年あけましておめでとうございます。
 ご家族そろってよいお正月を迎えられたことと思います。
 年頭に当たり一言ご挨拶を申し上げます。
 コロナ禍も昨年五月より五類に移行しましたが、まだまだ
 気を緩めることは出来ません。日常生活も徐々に戻り
 つつある中、当会の目的である「会員相互の親睦を図り
 互いに助け合い老後の生活を健全で豊かにする」
 等を念頭に置き、役員会で話し合い、季節に沿った活動やボランティアを進めて行き
 たいと考えています。併せてSC島本の多彩な行事にも積極的に参加し、連帯の輪を
 広げ進めることにより、老人会のイメージを少しでも和らげたいと思います。そして、
 皆さんと気兼ねなく悩み等を話したり体を動かす事により、気分も心も晴れ新しい仲
 間も出来、日常生活にも活気が生まれ、一歩外に出てみようとなり、新たな生きがい
 が見つかるのではないのでしょうか。一人でも多くの皆様の加入をお待ちしています。
 今年も健康第一に心がけ、一日一日を大切に大事にしながら会員の皆さんと共に楽
 しく過ごせる活動を、役員一同微力ながら努力するつもりです。この一年が素晴らし
 い年となります事を祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。



■節分祭は2月3日(土)

人形受付・餅焼き
17時～20時

■今年の「燃えるゴミ」

1月5日(金)からです！！

■歳末助け合い運動の結果

■助け合い募金を班長さんに集金して頂きました結果、12月23日現在

44,300円

集まりました。

■この運動により寄せられた芳志は、社会福祉施設・作業所及び地区委員会へ配分し、地域貢献事業や社会福祉活動等に幅広く活用されます。



■自治会リサイクル回収

毎月第一土曜日

新年は**1月6日(土)**

■12月の回収では**4,685円**の収入がありました。

■売上は公民館の維持管理等山崎自治会の活動に使用されます。
皆さんのご協力、
よろしく願い致します。



■これまでの「山崎だより」をスマホやパソコンで**閲覧**や**ダウンロード**することができます。配布版は1月号以外モノクロですが、これは**カラー版**です。右のQRコードをカメラで読み込んでください。 QRコード⇒⇒⇒⇒⇒⇒



■節分祭寄進のお願い

■節分祭は氏神様にお詣りし、心身を清め無事息災をお祈りする日です。昨年寄進頂いた方及び事前にご連絡頂いた方には、総代会役員が「奉加帳」を持参して各家庭にお伺い致します。また、3日当日も受付を致しますので御協力の程よろしく願いいたします。

■なお、各戸にお配りする袋の中の人形に、氏名、年齢(又は干支)を書き、当日ご持参して下さい。厄除け開運の神事と共に、家内安全、福德増進の御祈願をご奉仕申し上げます。人形を余分にご入用の方も役員にお申し出下さい。

■旧年中の「御札・お正月飾り等」もご持参頂くとご祈禱後「とんど焼き」を致します。



■山崎年長者クラブ

■1月8日(月)役員会

／公民館／10:00～

■1月15日(月)新年懇親会

／11時～／会費1,000円

／内容＝大正琴演奏

歓談、カラオケ、ビンゴゲーム

／参加申込みは1月7日までに

班長さんへ

■清掃奉仕活動・椎尾神社の清掃は冬季の間(1～3月)お休みします。

■公式ゲーム(健康わなげ)

／毎週金曜日

／10時から12時迄

■奈良時代、天王山の西側に大きな寺がありました

■昨年11月号で紹介した「大山崎歴史資料館開館30周年記念」の歴史講演会「記憶の中の西観音寺」(西観音寺とは今の椎尾神社のことです)で初めて知ったのですが、奈良時代、椎尾神社の山奥、俗称サントリー山(天王山山頂の西)付近に「慈悲尾山寺」というお寺がありました。後に大山崎町白味才に移転した「妙音山観音寺」に対し「西観音寺」と呼ばれました。また地名の「信善谷」や「谷」の号を冠し、「信善谷」「谷寺」「谷の観音」とも呼ばれました。今回から数回にわたり、この「慈悲尾山寺(西観音寺)」について紹介します。

■慈悲尾山寺は奈良時代の746(天平18)年、聖武天皇建立の祈願所で、開基は行基菩薩。本尊は「十一面千手観音」です。平安時代の1004～12(寛弘元～9)年、失火により一山全焼しましたが、1154(仁平4)年、河内の豪族「八戸重忠」が再興しました。

1149～55(久安5～久寿2)年の頃は天台宗に属していたことが解っています。さらに1062(庚平5)年から1221(承久3)年までは師資相承(しししょう／今で言う住職の変遷)の記録が「京都大学総合博物館文章」等に残っています。

■時代が進み、1616(元和2)年には、現在の椎尾神社境内を中心に7間(約12.3m)4面の本堂、鎮守五社明神、拝殿、鐘堂、経蔵、常行堂、三重塔、閻魔堂などの他、12坊(僧侶の居所)が立ち並ぶ威容を誇っていたそうです。

■右の写真は「山崎合戦図屏風」(江戸時代後期)に描かれている西観音寺(左上部に「谷の観音」と表記)で、中央左に豊臣秀吉が座っています。焰魔堂前広場での陣構えを描いたものです。当時、山崎と言えば「離宮八幡」と並び「西観音寺」が代名詞となるほど有名だったと考えられています。

